第13回日本組織適合性学会大会のご案内

第13回日本組織適合性学会大会
大会長　佐田　正晴

皆様におかれましては益々ご清祥のこととお慶び申し上げます。

第13回日本組織適合性学会大会を下記の要領にて開催いたします。本大会では臨床家との相互理解を深めると共に接点を求めるために,「MHC: 基礎と臨床のバリアフリーと協調を目指して」をメインテーマにいたしました。

また移植に関する「市民公開講座」も企画しております。

多くの皆様の御参加をお待ちいたしております。

会　期: 2004年9月23日(木・祭)〜9月25日(土)

会　場: 千里ライフサイエンスセンター
〒560–0082　大阪府豊中市新千里東町1–4–2
TEL.　06–6873–2010
FAX.　06–6873–2011
会場および会場へのアクセスは下記HPをご参照下さい。
HP.　http://www1.senri-lc.co.jp

大会内容

以下の学術プログラムを予定しています。

1. 特別講演・教育講演
   - 「Immunologic monitoring of transplant patients」
     Paul. I. Terasaki (Terasaki Foundation Laboratory, USA)
   - 「移植における免疫寛容導入: 同種移植から異種移植へ」
     山田　和彦 (Transplantation Biology Research Center, Massachusetts General Hospital, USA)
   - 「幹細胞を用い再生医療の現状と問題点」
     中畑　龍俊(京都大学医学部発生発達医学)
   - 「造血幹細胞移植におけるNK細胞受容体適合性の意義」
     屋部　登志雄(東京都赤十字血液センター技術部研究一課)
2. シンポジウム・ワークショップ(予定)
   - 「造血幹細胞移植」
   - 「移植医療におけるHLAタイピングの標準化」
   - 「特殊疾患・症例のHLAタイピング」
3. 一般演題
4. 市民公開講座(予定パネリスト)
   - Paul. I. Terasaki (Terasaki Foundation Laboratory, USA)
   - 河野　太郎(衆議院議員)
   - 小寺　良尚(名古屋第一赤十字病院・骨髄移植センター長)
   - 一戸　辰夫(京都大学大学院医学系研究科血液腫瘍内科)

- 植岡　健一(日経メディカル編集部　骨髄移植推進財団・前事務局長)

5. ランチョンセミナー
「臓器移植」
「造血幹細胞移植」
6. イブニングセミナー
「医用ミニブタの医学・生物学的応用」

一般演題募集要項

1. 発表形式
発表形式は口演またはポスターにより行います。演者は本学会員であることが必要です。発表形式(口演またはポスター)に関しましてはプログラム委員会に一任いただきたく存じます。
2. 申し込み方法
1) 抄録形式
- 抄録は Microsoft Office Word のテキストファイルを用い作成下さい。
- 演題名，演者(発表者に○印)，所属(正式名称が長い場合には省略所属名)，本文の順で作成下さい。
- 本文は 800 字以内を厳守し，目的，方法，結果，考察などに分類し記載下さい。英数字は半角文字を使用し，2 文字で 1 字とします。

2) 演題申し込み票ファイルの作成
- 抄録とは異なるファイルを作成下さい。
- 演題名，演者，所属，代表者の連絡先住所，電話番号，FAX，e-mail アドレスを必ず記載下さい。

3) e-mail による演題申し込み
- 演題受付は原則として e-mail 受付のみといたします。
- 件名は「13JSHI 演題」とし，① 抄録，② 演題申し込み票ファイルの 2 つのファイルを，添付書類にて第 13 回大会事務局アドレスに送って下さい。

3. 演題申し込み締め切り
2004 年 5 月 31 日(月)必着
締め切り延長などは日本組織適合性学会 HP で随時更新します。
4. 演題受理通知および採択通知
- 演題受付後 7 日以内に，e-mail または FAX にて演題受理を通知いたします。
- 演題発表形式(口演またはポスター)および発表日時につきましては，2004 年 7 月下旬頃までに，e-mail または FAX にて通知いたします。

2004 年度 TFB 学術奨励賞の募集

参加登録費

下記，事前登録を行います。

参加費

	理事・評議員	会　員
事前登録 (2004年8月31日迄)	¥8,000	¥6,000
当日参加 (2004年9月1日以降)	¥10,000	¥8,000

事前登録参加費は下記の銀行口座に振り込みお願いいたします。参加証(領収書兼用)は，学会当日に受付にてお渡しします。尚，振込の際に氏名の後に会員番号を必ずご記入下さい。

〈振込先〉
りそな銀行　千里北支店
(普通)　6219903
第13回日本組織適合性学会大会　大会長　佐田正晴(さだまさはる)

懇親会

2004年9月24日(金) 18:30より千里阪急ホテルプールサイド(雨天の場合は屋内)にて懇親会を開催いたします。

神戸女子大学音楽学部「音楽によるアウトリーチ」によるコンサート

宿泊・交通の御案内

本大会に御参加の皆様には，近畿日本ツーリストが宿泊，交通の手配をいたします。下記アドレスにアクセスいただきお早めにお申し込み下さい。

- 第13回日本組織適合性学会宿泊・近畿日本ツーリストアドレス
  http://www.lhweb.jp/knt/soshiki/sanka.html

会場までの交通案内 (HP. http://www1.senri-lc.co.jp)

会場の最寄り駅は，地下鉄御堂筋線・千里中央駅，大阪モノレール・千里中央駅です。

- 大阪伊丹空港から大阪モノレールで約13分
- 新大阪駅から地下鉄御堂筋線で約13分
- 大阪梅田から地下鉄御堂筋線で約19分

大会事務局

本大会に関するお問い合わせ，一般演題，2004年度TFB学術奨励賞の応募は，下記大会事務局にお願いいたします。

〒565–8565　大阪府吹田市藤白台5–7–1
国立循環器病センター研究所　再生医療部内
第13回日本組織適合性学会大会事務局
事務担当：鳥山　恵
TEL. 06–6833–5012内線2516，2362　FAX. 06–6835–5496

E-mail. megutori@ri.ncvc.go.jp

その他

- QC ワークショップ，認定制度講習会，認定試験につきましては本号別項を参照下さい。
- 大会最新情報は日本組織適合性学会 HP で随時更新しますのでご参照下さい。

第８回　HLA-DNA タイピング QC ワークショップのご案内

日本組織適合性学会
認定制度委員会
委員長　佐田正晴
QC ワークショップ部会長　木村彰方

認定制度委員会主催の QC ワークショップ（QCWS）集会を開催致しますので、下記の通り案内致します。サンプルのタイピングを実施しない方々も、HLA-DNA タイピング技術を巡る知識のアップデートのためにQCWS 集会へ参加下さい。

記

1. 日　時：平成 16 年 9 月 23 日（木、祝日）　13:00–15:50

2. 場　所：千里ライフサイエンスセンター　5 階　ライフホール

3. 参加費：QCWS 集会のみの参加は、資料代等の実費として一名 2,000 円を申し受けます。申し込みをされた方々には、8 月下旬に QCWS 集会の資料（CDR などの電子媒体）を施設単位で送付する予定です。

4. 参加申し込み：申し込み時に「QCWS 集会のみの参加」と明記してください。
学会ホームページ QC ワークショップ部会の URL（http://jshi.umin.ac.jp/QCWS/）より申し込んで下さい。あるいは、前記 URL より申し込み様式をダウンロードし、必要事項を記入後、メール添付にて QCWS 部会まで送付ください。なお、電子媒体の使用が困難な場合には、ファックスまたは郵送でも受け付けますので、MHC Vol. 10 No. 3（page 10）に掲載の第 8 回 HLA-DNA タイピング QC ワークショップ参加申込書を使用してください。参加費の払い込みをもって参加申し込みの完了と致しますので、参加費は以下の口座に振込んでください。原則として、振込みの控えをもって領収書とさせていただきます。

5. 締めきり：
QCWS 集会のみの参加の場合の申し込み締めきりは、平成 16 年 6 月 25 日（金）とします。QCWS 集会は当日参加も例外的に受け付けますが、その場合は資料が準備出来ないことがありますので、原則として事前に参加申し込みをしてください。

6. 振込み口座
みずほ銀行　厚木支店
普通預金　8037067
JSHI 認定制度委員会事務局　猪子英俊

組織適合性検査技術者認定制度
平成16年度・認定HLA検査技術者講習会のご案内

組織適合性検査技術者認定制度委員会
委員長　佐田　正晴
組織適合性検査技術者認定制度委員会教育部会
部会長　西村　泰治

日　時：平成16年9月23日(木曜日：祭日) 16時から19時
場　所：千里ライフサイエンスセンター　5階　ライフホール
参加費：2,000円程度を予定(テキスト代を含む)

内　容：各講習とも質疑応答時間を含めて，40分ほどを予定しています。なお講習のタイトルは今後，若干変更される可能性があります。

(1) HLAの検査法：　タイピングとクロスマッチについて
　中島　文明　先生(神奈川県赤十字血液センター)
(2) HLAの遺伝学：　木村　彰方　先生(東京医歯大・難研・分子病態分野)
　ブレーク (15～20分)
(3) HLAの構造と機能：　移植免疫との関連
　千住　覚　先生(熊本大学・院医薬・免疫識別学分野)
(4) 移植臨床におけるHLA：　造血幹細胞移植を中心に
　一戸　辰夫　先生(京都大学医学部附属病院 血液・腫瘍内科)

この講習会は，今後HLA検査技術者認定を取得しようとする者を対象に実施されますが，それ以外の者であっても自由に参加することができます。受講希望者には，以下の申込書に必要事項を記入し，認定制度委員会事務局宛にFAX (0463–94–8884) で平成16年6月25日(金)までに送付してください。あるいは，Eメールで件名を「認定講習会」とし，申込書の必要事項を書き込んで「jshijimu@m.med.u-tokai.ac.jp」宛に，上記締め切り日までに送信してください。テキストは，申込数に応じて作成し，申込者に優先して配布します。そのため当日の申し込み者については，テキストの配布を受けられない場合がありますことを，あらかじめご了承ください。なお参加費は平成16年8月25日(水)までに，指定の銀行口座(みずほ銀行厚木支店　普通預金8037067 JSHI 認定制度委員会事務局　猪子英俊)に振込んでください。なお参加費前納者には，事前に講習会資料を送付させて頂きます。また受講申し込みをされ参加費を振り込まれた方で，当日欠席された方には返金できませんことを御了承ください。

平成16年度認定HLA検査技術者講習会　受講申込書

氏　　名：
所　　属：
住　　所：〒
電話番号：
FAX番号：
Eメール：
HLA検査技術者認定取得予定　□なし　□あり → 平成　　年度を予定

平成16年度　認定HLA検査技術者試験実施要領

組織適合性技術者認定制度委員会
委員長　佐田　正晴
組織適合性技術者認定制度委員会試験問題検討部会
部会長　徳永　勝士

認定HLA検査技術者及び認定組織適合性指導者認定制度規則(以下「規則」という。)に基づき認定HLA検査技術者資格認定試験を下記のごとく実施する。なお，研修場所・日時に関しては後日申請者に文書で通知する。

平成17年度に受験を予定している者は，講習会のみ今年度に受講しておくこと。平成18年度以降に受験を予定している者も講習会の受講は可能である。なお，講習会の詳細については6頁の「講習会開催のご案内」をご覧いただきたい。

1　申　請　資　格: 認定HLA検査技術者の認定試験受験資格基準は，申請の前年度までに次の各項のすべてを備えていなければならない。(1) 日本組織適合性学会(以下「学会」という。)の会員歴が通算して3年以上あること。(2) 組織適合性検査に関する業務経験が3年以上あること。(3) 5年間で技術者履修課程に定められた講習の受講歴があること。(4) 5年間で資格審査基準が30単位以上あること。但し，当学会の大会への参加が5単位以上含まれていなければならない。なお，(2) の業務とは，組織適合性に関する検査，研究及び教育をいう。

2　申請書提出期限: すでに締切りました。

6　実 技 研 修 会: 日時，場所等は申請者にメールまたは文書で通知する。
7月から8月中の2ないし3日間(施設によって異なる)を予定している。開催都市は，東京，神奈川，京都，大阪，福岡を予定している。

7　実技・筆記試験:
筆　記: 平成16年9月23日(木) 16時00分から17時00分(時間が変更になりました。)
会　場: 千里ライフサイエンスセンター(大会会場)
実　技: QCワークショップの参加歴がある場合には免除される。
QCワークショップの参加歴がない場合には実技研修評価をもって実技試験に換える。

HLA 標準化委員会からのお知らせ

検査結果(ワークシート)記載法と結果報告書表記法 およびアンビギュイティ (ambiguity) の取扱いの原則 (2003 年度改訂版)

日本組織適合性学会 HLA 標準化委員会
(2004 年 4 月 6 日改訂)

Ⅰ. 検査結果(ワークシート)の表記法について

1. 2 桁レベル (粗分別, low resolution) でタイピングを実施した場合は, 2 桁でアリルを表記するものとし, 4 桁レベルでアリルを表記してはならない。また, アンビギュイティ (ambiguity) のある結果を記載する場合は, 下記の「**Ⅱ. アンビギュイティ (ambiguity) の取扱いについて**」に従う。2 桁レベルで区別できないアリルが存在する場合は, 区別のできる別な試薬キットまたは方法を用いてアリルを区別することが望ましい。

2. 4 桁レベル (細分別, high resolution) でタイピングを実施した場合は, 4 桁でアリルを表記するものとする。ただし, 5 桁以上の細分化が知られているアリルで, 5 桁以上でアリルが特定できた場合にのみ, その桁数でアリルを記載する。また, 4 桁レベル以上のタイピングでアンビギュイティのある結果が得られた場合は, それらのアリルが区別できる別な試薬キットまたは方法を使用してアリルを判別することが望ましい。

3. ひとつのカラム(セル)に 2 種類のアリルを記載する場合は, それぞれを「,(カンマ)」で区切る。
   例 1 「HLA-DRB1*04, HLA-DRB1*13」(2 種類のアリルがヘテロ接合で検出された場合)
   例 2 「HLA-DRB1*11, -」(アリルが一つしか検出されなかった場合は, 検出されたアリルを最初に書き,「,」を付した後に「-」を書く)

4. ふたつのカラム(セル)に 2 種類のアリルを記載する場合は, それぞれのアリルをそれぞれのカラムに記載する。アリルがひとつしか検出されなかった場合は, 後ろのカラムに「-」を記載する。家系調査によりホモ接合と判定された場合は同じアリルをそれぞれのカラムに記載することが従来おこなわれていたが, この場合についても, アリルが一つしか検出されていないため「-」で記載することが望ましい。これは, 次の 5. の場合と区別するためである。

5. 同じアリル群に属していても明らかに異なるアリルが二つ検出された場合には, それぞれのカラムにアリルを記載する。
   例 1 「HLA-DRB1*11, HLA-DRB1*11」は, 明らかに区別できる HLA-DRB1*11 アリルがある場合 (HLA-DRB1*11 のヘテロ接合) に使用する。「HLA-DRB1*1101/04/06/+」と反応するプライマーセットと「HLA-DRB1*1102/14/16/+」に反応するプライマーセットの両方に反応しているような場合に使用する。
   参考 1 「HLA-DRB1*11, -」は区別できない HLA-DRB1*11 アリルがある場合 (HLA-DRB1*11 のホモ接合の場合を含む。なお, 家系調査によってホモ接合が確認されている場合には, コメント欄にその旨を記載する)

参考2　判定されたアリル以外に明らかに異なるアリルの存在が疑われるが，そのアリルを特定できない場合は，「HLA-DRB1*11, nd」と判定できたアリルの後ろに「, nd」などと記載してもよい。ただし，このような表記はあまり望ましくないが，他の検査キットや別の方法を用いてもアリルを特定できない場合など，やむ終えない場合にのみ使用すること。

Ⅱ．アンビギュイティ（ambiguity）の取扱いについて

区別できないアリルが2種類以上存在する場合には以下に従う。

1. 最も番号の若いアリルを4桁で最初に表記し，その後に「/(スラッシュ)」を入れ，2つ目以降のアリルは3桁目と4桁目の2桁の数字のみを記載する。
   a. 区別の付かない4桁アリルが2つ存在する場合は以下のように表記する。
      例　「HLA-DRB1*1501/03」(HLA-DRB1*1501 と HLA-DRB1*1503 が区別できない場合)
   b. 区別の付かない4桁アリルが3つ存在する場合は以下のように表記する。
      例　「HLA-DRB1*1301/02/16」(HLA-DRB1*1301，HLA-DRB1*1302 と HLA-DRB1*1316 が区別できない場合)
   c. 区別の付かない4桁アリルが4つ以上存在する場合には，番号の若い順に3アリルを記し，最後に「/+」をつける。
      例　HLA-DRB1*0401/03/04/+

2. 検査試薬キットに添付されている判定表には4桁と6桁のアリルが混在表記されている場合があるが，6桁アリルは使用しない。
   例　判定表に「HLA-DRB1*150101 - 13」と書かれている場合，「HLA-DRB1*150101/02/03/+」とは記載せず，「HLA-DRB1*1501/02/03/+」と記載する。

3. 上2桁レベルが異なる4桁アリルが複数存在する場合には，4桁表記を「/(スラッシュ)」でつなぐ。
   例　アリルが2つの場合，「HLA-DRB1*1501/1601」と記載する。
   3つの場合以上の場合，「HLA-DRB1*1501/1602/+」と記載する。

4. 上2桁レベルが異なる2桁アリルが複数存在する場合は，2桁表記を「/」でつなぐ。ただし，2桁レベルで区別できないアリルが存在するようなアンビギュイティタイピングは望ましくないため，このような表記は原則として採用しない。
   例　アリルが2つの場合，「HLA-DRB1*15/16」と表記する。
   3つの場合，「HLA-DRB1*08/11/12」と表記する。
   4つの場合以上の場合，「HLA-DRB1*08/11/12/+」と表記する。

5. 2桁レベルでも可能性のあるヘテロの組み合わせが複数存在し，それらが区別できない場合は，代表的なアリルに「//+」をつけて表記する．
   例　HLA-B*3501，*5101; HLA-B*3511，*5109; HLA-B*5301，B*7802 という3種類のヘテロの組み合わせが区別できない場合は，「HLA-B*3501//+，HLA-B*5101//+」と表記する．

Ⅲ．結果報告書の表記法について

1. 2桁レベル（粗分別，low resolution）でタイピングのみを実施した検査の場合

a. 粗分別タイピングのみを実施した場合は，原則的に2桁レベルで報告するものとするが，「HLA型」で結果を報告してもよい。4桁レベルでアリルを報告してはならない。報告書への記載については「**Ⅰ. 検査結果(ワークシート)の記載法について**」の3と4に従う。従来使用していた「血清対応型」を今後は「HLA型」とし，血清学で決めたものについては「HLA抗原型」と標記することとする。

例　HLA-DRB1*09と判定場合は，HLA-DRB1*09と報告する。HLA-DRB1*0901（あるいはHLA-DRB1*090102）としてはならない。あるいは，「HLA-DR9」と報告してもよい。

b. HLA型の推定は，WHO命名委員会報告に従う。ただし，WHO命名委員会でHLA型が不明な場合でも，日本組織適合性学会HLA標準化委員会において「HLA型」が確認されている場合(**別表**)には，その「HLA型」を記載する。

例　HLA-DRB1*0403/05/06/+と判定された場合に，「HLA-DR4」と記載してもよい。

c. WHO命名委員会と日本組織適合性学会HLA標準化委員会の何れでもHLA型が不明な場合は，アリルを2桁で結果報告書に記載する。その場合，備考欄に「このアリルは対応するHLA型がよく分かっていないためアリル名で記載してあります」などと説明を付記してもよい。

d. 抗原対応部分(アリル名の上2桁の数字)で異なるアリルが複数混在し，区別できない場合は，それらのアリルが区別のできる別な試薬キットまたは方法を用いてアリルを区別した後に結果を報告することが望ましい。

e. 判定されたアリルが一つで，それ以外に明らかに異なるアリルの存在が疑われるが，そのアリルを特定できない場合は，「nd」などと記載してもよい。ただし，このような表記はあまり望ましくないが，他の検査キットや別の方法論を用いてもアリルを特定できない場合など，やむ終えない場合にのみ使用する。その場合，備考欄に「HLA-DRB1*11以外にアリルの存在が疑われますので，精査中です」などと説明を付記することが望ましい。なお，家系調査によってホモ接合が確認されている場合は，コメント欄にその旨を記載する.

2. 4桁レベル（細分別，high resolution）でタイピングで実施した検査の場合

a. 細分別度（high resolution）タイピングで実施した検査の結果報告書には，4桁以上のアリルを記載する(例1)。または，アリル名の後ろに括弧書きでそのアリルから推定されるHLA型のタイプを記載する(例2)。この場合，備考欄に「(　)内は，アリルに対応するHLA型を記載してあります」などと説明を付記してもよい。

例1　HLA-DRB1*1302

例2　HLA-DRB1*1302 (HLA-DR13)

別　表

アリル名	対応するHLA型
HLA-B*1529	HLA-B70
HLA-A*2420	HLA-A24
HLA-B*5603	HLA-B56 (22)